

(様式7-2)

会派政務調査活動・先進地調査等 精算書

令和7年7月10日

三田市議会議長 福田 秀章 様

本会派(私)は、会派政務調査活動・先進地調査に要した費用の精算結果を下記のとおり報告します。

会 派 名	市民とともに	代表者	
		議員名	肥後 淳三
派遣者氏名	肥後 淳三		
視 察 先	① ジビエ処理施設 新田哲也氏自宅 丹波篠山市大上219 ② 兵庫県丹波篠山市役所 丹波篠山市北新町41		
調 査 事 項 (調査目的)	① ジビエ食肉加工施設とジビエ販売を営んでいる方からジビエの捕獲を始め、流通等を調査することで三田市での課題解決の糸口を探る。 ② 波篠山市のAIデマンド交通等の取組について		
日 時	令和7年7月3日(木) 午前10時から午後3時30分		
支 払 金 内 訳	科 目	支 出 額	摘 要
	宿泊料		
	日 当		
	鉄道賃 (モジュール)		
	航空賃		
	バス賃		
	船 賃		
	レンタカー	2, 273	8,525/4=2,131円,燃料費 570/4=142円
その他	14, 884	手土産(2箇所)4,536/4=1,134円 施設見学科 55,000/4=13,750円	
合 計	17, 157		
備 考			

※100 km未満の距離における特急利用、タクシー利用の理由は備考欄に記入。

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入の上、押印してください。

個人支給の場合、会派名(無会派は記入不要)、議員名を記入の上、押印してください。

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

令和7年7月10日

三田市議会議長 福田 秀章 様

本会派(私)は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	市民とともに	代表者	
		議員名	肥後 淳三 /
派遣者氏名	肥後 淳三		
視察先及び調査事項(調査目的)	*丹波篠山市大上219... ジビエ食肉加工処理施設「カーリマン」視察 / *丹波篠山市...丹波篠山市北新町41番地 AI デマンドバスの概要について		
日 時	令和7年7月3日(木) 午前10時~午後3時30分		
視察先対応者	・「カーリマン」 施設代表 新田 哲也 ・丹波篠山市 農都創造部 森づくり担当 部長 押田 健一 農都創造部 森づくり課 鳥獣被害対策専門委員 京極 暁 企画総務部 次長兼創造都市課長 藤田尚位(ふじたよしのり) 企画総務部 創造都市課 係長 竹内 一真 議会事務局 書記 岡崎 賢二 副議長 向井 千尋		
(調査結果の概要及び所見) 別紙でも可 *ジビエ食肉加工施設・AI デマンドバス視察所見(詳細は別紙1のとおり) ・ジビエ肉解体施設の現場とジビエ肉(シカ)の処理に対する新田氏の考え方を学んだ。 ・丹波篠山市が、令和6年11月から事業化しているAI デマンドバス事業全般について学んだ。丹波篠山市の住民の移動の確保に対する考えを知ることができた。/ *名刺と詳細報告は別紙(資料を添付)参照			

個人支給の場合、会派名(無会派は記入不要)、議員名を記入の上、押印してください。

別紙1【丹波篠山市:ジビエ食肉加工施設及び AI オンデマンドバス調査報告】

1 視察先と調査事項

視察先：丹波篠山市

事 項：①ジビエ食肉処理施設「カーリマン」

②AI デマンドバスの概要について

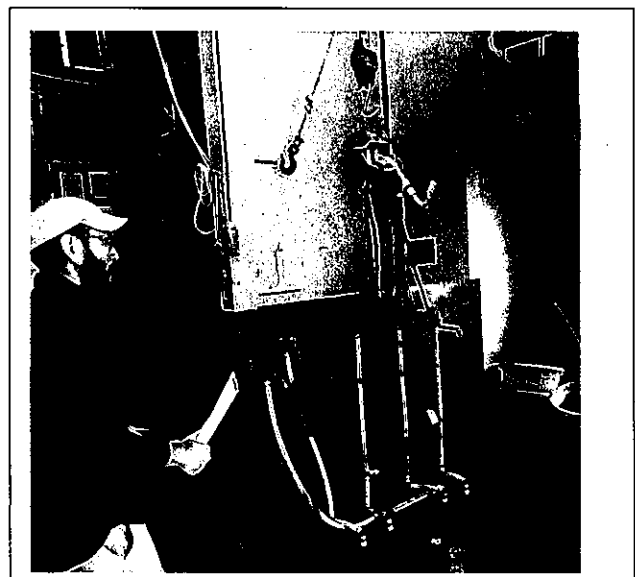
2 調査内容

(丹波篠山市の概要)

丹波篠山市は兵庫県の中東部、三田市の北に位置し、人口は 38,734 人（令和 7 年 5 月末現在）、総面積は 377.59 平方キロメートル。東は京都府、西・北は丹波市・加東市、南は大阪府・三田市などに隣接。舞鶴若狭自動車道の開通や JR 福知山線の複線化によって、関西経済圏の大阪・神戸からの時間的距離が大幅に短縮され、1 時間圏域となっている。

市の基幹産業は農業。主な特産物には、丹波篠山黒豆（黒枝豆）や丹波篠山山の芋、丹波栗、丹波松茸、丹波茶、丹波焼、丹波木綿などがある。8 月には「デカンショ祭」が盛大に行われており、「陶器まつり」や「味覚まつり」などのさまざまなイベントが年間を通じて行われ、三田市にとっても丹波篠山市は丹有地域として繋がりが深い市である。

調査事項1【ジビエ食肉加工施設「カーリマン」について】



(ジビエ食肉加工施設内を見学する)

ア ジビエ肉処理施設を開設するに至った経過

- 新田氏（カーリマン）は、元々京都の建設会社に勤務していた。大工の親方から時折、イノシシ肉などを勧められ食す機会があった。ジビエに対して深い繋がりができたのは、丹波篠山市が応募した「まちおこし協力隊」がきっかけである。徐々にシカやイノシシの駆除を進めるのは良いが、「その肉をそのまま廃棄してしまうのは、もったいない。」との思いが出て、シカ中心の食肉加工処理施設を国や市の助成金を活用して古民家に設置した。

イ カーリマンと地域住民の関係

- 地域からシカが罠にかかっているとの通報をうけると即座に確認に行くことにしている。自分で必ず仕留め、食肉処理も自分で行き、次の卸業者等へ流通させている。
- 自分で処理するのは、肉質にこだわりを持つことと、カーリマン提供の肉ならば「美味しい」と言ってもらえる「信用」が重要だと思っている。との理由から。
- 地域でもいい加減な対応をしていると噂が立ち、カーリマンとして生きていけなくなるので、地域との信頼関係は十分すぎるほど注意している。

ウ 狩猟から加工処理過程

- 捕獲・・・最も良い捕獲が、肉質の関係で「箱罠」、次に足罠である。足罠にかかったシカは、逃げたいあまり、筋肉に血液が回る為、箱罠のシカよりも肉質が落ちる。鉄砲で仕留めたシカについては、弾があたった部位によっては、まったく食卓に上げられないに肉質になっている。
- 運搬・・・地域から連絡があると罠にかかっているところまで行き、現地で処分する。血抜きをし、軽トラックに乗せ、体温が高いので、ペットボトルに入れた氷で冷やしながら約30分かけて処理施設へ運び込む。
- 1次処理・・・シカを吊るして皮を剥ぐ行程
- 2次処理・・・4℃までの冷蔵庫に吊るしたまま5日間保管する
- 3次処理・・・枝肉として処理する

エ その他の設備

- 金属探知機・・・弾の存在（肉の中に隠れていると信頼が損なわれる）

オ 免許関係

- 狩猟免許・・・国の認定は、食肉販売には必要ない（国のお墨付きのみ）
- 食品衛生責任者講習
- 食肉加工業を行うものは、獣医師免許、加工業で5年の経験が必要であり、ハードルが高い。なので、カーリマンとしては、篠山市内の「篠山ハム」とタイアップし、シカソーセージなどに加工してもらっている。

カ 加工品や肉の販売等

- 加工品は、ポートピアホテルのレストラン、市内外でジビエ料理を出しているレス

トランへ定期便でお届けしている。

○鉄砲・足縄で仕留めたシカ肉については、品質的に落ちるものの、ペットフードのおやつなどにして加工し販売している。

ペットフードは、雑貨扱いとなり、カーリマンでも販売が可能。

現在の多くのジビエが、その処理のしやすさから、ペットフードとして流通している状況である。

キ シカの価値

○シカ1頭から品質が良ければ、余すことなく利活用ができると考えているが、内臓、骨については、利活用が進んでいない。

○品質の良いシカについては、1頭あたり5万円になる。

ク 廃棄の方法

○現在、内臓などの部位は、市クリーンセンターへ持ち込み焼却処理している。

○動物園に引き取ってもらうこともあったが、引き取り価格が見合わないことや弾が残っていたりする可能性もあり、動物園から引き合いがない。

ケ シカを獲ること、今後の展望について

○シカを年間400頭近く捕獲し、処理している。田畑や自然環境を守る意味からも仕事としての意義は大きいものがあると感じているが、1人で処理できる数量には限界があり、現在市内外から研修受け入れを実施している。

今後は、シカを獲る若者を増やしていきたい。

コ 丹波篠山市の状況

○有害鳥獣による農作物被害対策の3つの原則は、①農地の防御②有害鳥獣を減らす③他人任せにしない（住民参画が大事）。

○獣害防止金網は、総延長460kmみ及ぶ。

○鳥獣被害対策実施隊（市猟友会委託）を被害対策法に基づき設置（非常勤の特別職公務員61名）参考：猟友会員は106名。

○実施隊員は、技能講習の免除、狩猟税の軽減措置、市町村には、活動経費に対する特別交付税措置有。

○隊員に対しては、銃猟や罟猟取得経費を定額で補助

○県の育成プロジェクトと市の有害鳥獣捕獲実践研修により初心者育成事業実施

○丹波篠山市の捕獲状況

・農作物被害を及ぼす捕獲は、市の許可要。期間は、3月16日～31日、4月1日～11月10日（アライグマは年中）

・狩猟期間中の捕獲は、県登録の猟師が捕獲。捕獲期間は、11月15日～2月15日（シカ・イノシシは3月15日まで）

○丹波篠山市の取組（特色）

・銃猟と罟猟により捕獲している。・捕獲したシカ・イノシシの食肉利用の促進

・住民参画で獣害に強い集落づくり

○捕獲頭数・・・シカは、この3年間で600頭前後、イノシシは、令和3年度500頭、令和4年度202頭、令和5年度259頭イノシシは、近年豚熱感染により捕獲数激減

○報償費について

・隊員は、年間1万3千円の報償費あり。

・猟銃出動手当1日、1人4,800円。

・シカやイノシシの捕獲した報償費は、捕獲方法によって差があるが、箱罠では、シカ2万円、イノシシ1万3千円。

○丹波篠山市の取組の特徴である捕獲したシカ・イノシシの食肉利用促進

・捕獲したシカやイノシシは、できるだけ市が認定する食肉加工施設に持参するように制度化した。(山大、カーリマン、futaba harm)

・捕獲報償費のための証拠確認を食肉加工施設で代行。

・国(農水省)もジビエ利用率を促進する政策を実施。

・捕獲したジビエの利用率(シカ)は、約60%程度。

・イノシシは、令和3年度途中から豚熱感染地域に指定されていて利用促進が進んでいない。

サ ジビエ食肉加工施設等所見

カーリマンこと新田氏は、ジビエ肉加工処理施設自体が、農作物の獣害防止対策になっていることに加え、ジビエ肉の利用を促進することでSDGsの意義を私たちに訴えていたことが印象に残った。「命を大切にいただく」ことの大切さを感じた半日であった。

また、ジビエ肉加工処理の難しさも理解することが出来た。シカは体温が高く、肉質を保持するには、2時間以内の素早い解体と冷蔵が欠かせない。ジビエ肉の利用促進には、これらの施設を整える必要はあるが、何よりも猟師を育成し増やすことが大切である。また、その猟師の中から新田さんのように「加工処理施設を手掛けてみたい」との思いのある方が現れることが望ましい。

丹波篠山市においては、報償費、資格取得の経費負担軽減の制度を活用し猟師の育成に力を入れているが、その中でも獣害対策実践塾(年間5回開催)は、獣害の実情や対策講習、ワークショップ、ジビエ料理等中学生から受講できるプログラムであり、今後三田市にも今後必要になる取り組みではないかと考える。

調査事項2【AIデマンドバスの概要について】

ア 目的

隣接する丹波篠山市では、昨年度末からAIによるデマンドバスの運行が始まっている。本市では、神姫バスの路線撤退が始まっており、AIデマンドバス利用の有効性等を探る意味で視察した。

イ AIデマンドバスとは

利用者が「利用日、出発時間、乗車場所、降車場所を指定」し予約。他の利用者が同日、同時間帯に予約した場合は、AIがミーティングポイント（停留所）を判断し最適なルートと時間で乗降させるシステム。

ウ 運行概要

- 名称「のり～な」（R7年3月に市民公募で「のる～と」から改称）
- 運航方式：予約制自由経路運行（道路運送法第4条許可）
- 運航日数：日曜日と木曜日を除く週5日（祝、年末運休）
- 運行及び時間帯：令和6年11月より、8時～16時までの間
- 予約方法：電話、専用アプリ、LINE（アプリとLINE受付は、24時間）
- 運賃：200円または500円（現金のみ）
- 使用車両と台数：ワンボックス（定員8人）2台、タクシー利用（定員4人）1台
予備（ワンボックス）1台
- 運行事業者：㈱ウイング神姫（バス運行委託）、日本交通㈱（タクシー運行委託）
- ミーティングポイント：城下町エリア15か所を含む全市域396箇所に設置、市役所前のポイントは、下記のとおり、他地域では、ごみステーションや路面上に掲示されている。ただし、道路幅が狭い地域もあり、家の玄関口にはポイントを置かない。



(オンデマンドバス:のり～な)



(ミーティングポイントの掲示)

エ デマンドバス運行の背景

- 自動車への依存度が高く、路線バスも撤退が相次いでいた。
- 自動車の運転ができなくなった場合の移動手段として公共交通利用が見込まれる。一部のエリアでは、コミュニティバスの就航があるものの、運転手の高齢化が見込まれることから担い手も課題も浮上。
- 市内のデマンドバスの運行を民間委託することで市民の足確保に舵を切った。
- 市では、交通結節点までをデマンドバスで乗り入れ、結節点から様々な交通アクセスの利用を促すことで市民の移動を確保することにした。

オ 利用状況

利用計画では、一日あたり18人を目指しているが、令和6年11月の平均利用人数が、9.95人に対し令和7年5月現在で12.53人と順調に推移している。当初よりも市民にその利便性が知れ渡ったことが要因と分析。

カ 質疑より

○運賃形態の違いは？

城下町へは、デマンドバスを運行させると観光地でもあることから、タクシー会社の営業妨害となる恐れがある。このエリアへは500円乗車としており、城下町内でのデマンドバスへの乗車は出来ない。

○障害者の乗車について

原則、付き添いで乗車が可能な障害者は利用が可能であるが、車いす利用の方は、福祉タクシーなどの別の制度で乗車をお願いしている。

キ 課題

- ・予約していたにも関わらず、コミュニティポイントに現れない市民がいる。
- ・高齢者が多いのか、アプリ等よりも電話での予約が65%と多い。

ク 所見

・丹波篠山市では、市民の移動をAIデマンドバスシステム開発やバス会社に運転を委託することで、お金(事業費)がある程度かかってもやむを得ないとの判断をしていることが伺えた。

・三田市では、農村部でのバス路線の撤退が相次いでいる。現在は、コミュニティバスの運行や、デマンドタクシーの実証実験を実施しているが、市民の移動手段の確保は、新市民病院の設置が決まる中で今後重要な施策になってくる。

丹波篠山市で実施しているAIによるデマンドバスの運行も次のステップで模索する必要がある。丹波篠山市の取組みを大いに参考にして頂きたい。